

鳥取市議会予算審査特別委員会総務企画分科会会議録

会議年月日	令和5年3月14日（火曜日）		
開 会	午前10時54分	閉 会	午後1時54分
場 所	市役所本庁舎7階 第1委員会室		
出席分科員 (8名)	分科会長 砂田 典男 副分科会長 長坂 則翁 分科員 柳 大地、岡田 実、西尾 彰仁、伊藤 幾子、 平野真理子、上杉 栄一		
欠席分科員	なし		
分科員外議員	なし		
事務局職員	局長補佐 毛利 元 議事係長 中川 真理		
出席説明員	<p>【市民生活部】</p> <p>市民生活部長 鹿田 哲生 次長兼地域振興課長 漆原 利明 地域振興課課長補佐 山名 常裕 協働推進課長 北村 貴子 協働推進課参事 山根 優子 協働推進課課長補佐 宮谷 卓志 次長兼市民総合相談課長 大島 義典 市民総合相談課課長補佐 金谷 幸一 市民課長 西垣 隆司 市民課課長補佐 中島 泉</p> <p>【環境局】</p> <p>環境局長兼生活環境課長 国森加津恵 生活環境課課長補佐 古網 竜也 廃棄物対策課長 上田 光徳 廃棄物対策課課長補佐 西澤 直也</p> <p>【総合支所】</p> <p>国府町総合支所長 湯谷 一也 国府町総合支所副支所長 川口 泰弘 福部町総合支所長 平戸伊寿美 福部町総合支所副支所長 森 昌彦 河原町総合支所長 九鬼 栄一 河原町総合支所副支所長 武田 恵子 用瀬町総合支所長 片山 学 用瀬町総合支所副支所長 岡本 秀一 佐治町総合支所長 下田 俊介 佐治町総合支所副支所長 下石 直生 気高町総合支所長 中原 登 気高町総合支所副支所長 久野 明男 鹿野町総合支所長 岡本 幸子 鹿野町総合支所副支所長 小林 克己 青谷町総合支所長 田中 隆志 青谷町総合支所副支所長 安達 典子</p> <p>【監査委員事務局】</p> <p>事務局 局長 富山 茂 事務局次長 川口 悦代 局長補佐 金岡 正樹</p>		

	<p>【選挙管理委員会事務局】</p> <p>事務局 長 馬場 睦雄 事務局 次 長 田淵 康修</p> <p>【出納室】</p> <p>会計管理者兼出納室長 中村 理人 室 長 補 佐 井上 拓也</p> <p>【市議会事務局】</p> <p>事務局 長 保木本英明 事務局 次 長 植田 光一</p>
傍 聴 者	1 人
会議に付した事件	別紙のとおり

予算審査特別委員会総務企画分科会に切替え 午前10時54分 開会

◆砂田典男分科会長 はい。それでは、総務企画委員会を終了し、予算審査特別委員会総務企画分科会を開催いたします。

これより質疑を行います。本日の分科会について、何点か確認いたします。討論、採決は行うことができません。議案審査終了後、分科会長報告に盛り込むべき事項を取りまとめますが、分科会長報告は、審査時における質疑、答弁、意見を報告するものとなっておりますので、審査時に提出された意見等以外は報告することができません。分科会長報告は、各分科会で確認いたします。以上、皆様の御協力をお願いいたします。

議案第1号令和5年度鳥取市一般会計予算のうち所管に属する部分（質疑）

◆砂田典男分科会長 それでは、議案第1号令和5年度鳥取市一般会計予算のうち、所管に属する部分の質疑を行います。質疑、御意見のある方は、順次御発言をお願いいたします。

◆西尾彰仁分科員 はい、委員長。

◆砂田典男分科会長 西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 はい。私は、個別、事業別概要書の87ページの下段、ごみ収集委託費についてお伺いしたいと思います。これは、たしか公明党の浅野議員さんが質疑をされたと思いますが、ちょっと私が、そこで納得ができなかったもので、これ、概要書を見ますと、今年度の要求額は10億4,652万5,000円で、査定で10億3,368万7,000円ということで、下がっております。昨今、燃料費も上がっており、労務費も上がっている中で、この間の議会の中では、白色トレイをプラスチックごみと一緒に出して、その分をペットボトルのほうでということですが、ペットボトルも回数が増えた中で、事業者に負担が行つたのではないのかと、こういう収集の、その辺をちょっと鑑みるところでございますけれども、その辺の考え方について、再度お伺いいたします。

○上田光徳廃棄物対策課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 上田課長。

○上田光徳廃棄物対策課長 はい。廃棄物対策課、上田です。ごみ収集委託費でございます。先

週の質疑の中でも、少し触れさせていただきました。今年度、令和5年度、4年度～5年度につきましても、人件費のほうも、単価も若干上がってますし、当然、燃料費のほうも上がっております。それだけを考えますと、委託料は上がっていくということになるわけですが、令和5年度に廃止をします食品トレイ、これまで食品トレイを回収するのに当たって、市内の食品トレイ、令和4年度に食品トレイの回収に係る委託料、相当分としては、約5,800万円程度を、食品トレイの収集だけで、経費としてはかかっておりました。これを廃止にするということで、逆に、ペットボトルの収集は、これまで1か月に2回ということで、ざっと2週間に1回の収集でありました。これを毎週の回収にするということでもありますけれども、ここにつきましても、ざっと、ペットボトルの回収を増やしても、3,500万程度の増額で済むという計算でしております。差しきしますと、このたびの食品トレイを廃止にして、ペットボトルを増やす、さらに、人件費等も、人件費や燃料費を増やしたとしても、比較をすると、約2,300万～2,400万ぐらいの減額になるというところで、このたび、その経費の節減ということも含めて、見直しをしたところでございます。以上です。

◆西尾彰仁分科員 委員長。

◆砂田典男分科会長 西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 はい。大体分かりました。

では、この要求額のところで、10億4,600何がしというのは、これは、どの部分が、この査定で落とされたのか、その辺は、本当に必要なものじゃなかったのかというところを、ちょっとお聞かせ願えませんでしょうか。

○上田光徳廃棄物対策課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 上田課長。

○上田光徳廃棄物対策課長 廃棄物対策課、上田です。例年、これは、まず、それぞれの委託業者、委託業者ほうから、それぞれ見積りを取りまして、それを鳥取市の計算式のほうに置き換えて、財政当局と話をします。そのときに、全般的にどの部分をというよりは、全般的に、やっぱり圧縮をされるという部分、毎年のごとでございまして、極端に言うと、経費として要求をしたんだけど、これは全くゼロでしたというところまでではなくて、全体的な経費の節減ということの中で、1,300万程度の削減をしたということで、実際には、この削減になったとしても、来年度の委託につきましても、実施できるだろうという見込みで考えておるところでございます。以上です。

◆砂田典男分科会長 西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 はい。分かりました、大体。ただ、これからも物価が高騰する可能性もあるでしょうし、労働賃金についても、どの程度まで、また上がっていくかっていうのが分かりませんので、この収集事業者、大変、雪のときも雨のときも、それこそ年がら年中、頑張ってくださいとるわけでございますので、適正な委託料を出していただくことを要望しまして、終わりたいと思います。以上です。

◆砂田典男分科会長 そのほかの委員の皆様で、何かございますか。

◆岡田 実分科員 はい。

◆砂田典男分科会長 岡田委員。

◆岡田 実分科員 はい、岡田でございます。事業別概要が71ページの中山間地域・買い物支援事業でございます。これ、要綱を見ましたときに、その申請、この買物福祉であったりとか、運営助成であったりとかの、この補助金の申請時期が、4月の1日～4月の10日までとするというふうな形で、すごく、その申請時期が短い状況になっております。となると、今ここで予算上げておられるっていう中でいけば、予算の中では777万9,000円っていうところはあるんですけども、大体、申請が上がってくるような、補助の申請が上がってくるような見込みっていうものは立っているんでしょうか、お伺いいたします。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 地域振興課、漆原でございます。現在、対象となっているのが4事業者さんなんですけれども、毎年こちら上げてきておられますので、来年度も、同じような形で事業実施するという形になりますと、やはり申請時期は短いんですけれども、毎年やっておられますので、大丈夫だということです。

◆砂田典男分科会長 岡田委員。

◆岡田 実分科員 はい。ありがとうございます。そうしますと、こういった補助要綱などがありますと、ちょうど今、買物を、例えばトスクであったりとか、Aコープであったりとか、その中山間地域の中で買物するっていうことが、非常に困難な状況がある中で、この補助金っていうのは、そういった買物の支援とか、そういったところをするのに、非常に有効な補助金ではなからうかと思ひまして、今言われました、佐治、いろんな地域の中で、その支援を行っている以外の団体さんっていうんですか、そういったところが手を挙げてこないかなっていうふうな、そんな見込み、そのような希望を感じるわけなんですけども、その辺っていうのはございますでしょうか。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 地域振興課、漆原でございます。また、現在、今はJAとか、トスク等が撤退するとかというような話を聞いておるんですけれども、それにつきましても、新しい事業者が参画するというようなところに関しまして、事業者の要望とか地域等の要望、そういったところをしっかりとマッチングするところを見極めながら、もし、車両等が、例えば、購入車両等が必要になるということでしたら、新たにまた事業者が増えたということで、予算要求はしていく必要があると考えております。

◆砂田典男分科会長 岡田委員。

◆岡田 実分科員 はい。分かりました。なかなかこういった事業に参入しようと思えば、相当の検討をされたりとか、あと、事業主体者が誰であるとか、地域、地域の方とよく話をされるような形の中での、その地域の中で移動販売とかいうものを行っていくと思うんです。ということは、ある程度、こう情報発信、本市のほうからでも、地域のほうに対して、情報発信して、その買物に対する、企業さんも含めてなんですけども、そのほかのエリアをカバーできる

ことはないだろうかと、今、本当に話題になってますので、地域で買物難民というですか、買物がなかなかできないであったりとか、そういった意見等をすり合わせながら、新しいその事業者っていうものの発掘っていうものを、力入れていただきたいと思います。以上です。

◆砂田典男分科会長 そのほかの委員の皆様で、何かございますか。

◆上杉栄一分科員 はい。

◆砂田典男分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 事業別概要 73 ページの下段の小さな拠点整備事業費 300 万円ですけれども、まず1点目に、ちょっとよく、私もよく、これ分からだけど、小さな拠点整備事業の具体的な内容を教えてやってください。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 地域振興課、漆原でございます。この小さな拠点づくりは、もともと国土交通省が発案した事業でございまして、今後、過疎化によって、地域の活力が失われたりとか、先ほど、岡田委員さんが言われたような買物難民が発生したり、それとか、あとは、病院とかに、山間部におられる方でしたら、なかなか出られないというようなところを、今現在、交通事業者に関しても、日ノ丸バスとか日交、公共交通についても撤退していつているような状況でございます。その中で、地域の皆様に御協力いただいて、例えば、佐治でありましたら、さじ未来といった、地域の団体に様々な地域の課題を解決していただいている、1つの地域の未来を考えていただいているような、1つの大きな事業として考えております。

◆砂田典男分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 ちょっとよう分からだけどね、令和4年度、気高町逢坂地区、見込みで104万円、令和5年度も、同じ地域に300万円の、それこそ、具体的な今のこの、ここの取組の内容、こういった取組やとるんか教えてください。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 こちらの気高町の逢坂地区は、やはり、この、今後、公共交通の部分で、やはり住民の足がなくなるといったところで共助交通、そういったものも考えておられますので、そこの部分について、安心して暮らしていただけるような生活をしていくために、どうしていくのかっていうようなところを、今検討していただいているというような状況でございます。

◆砂田典男分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 地域の有償運送等々については、また別の、それこそ、あれがありますやん。これは、いわゆる国土交通省の、言ってみれば、補助事業という格好だけでも、ここで、じゃあ、地域の人の足回りを確保するために、地域で、地元で、何か車で送ったりっていうような活動してるわけですか。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。地域振興課、漆原でございます。それは1つの事業でありまして、例えば、佐治で言いましたら、買物手伝ったりとか、お墓の掃除をされたりとか、それとか、耕作放棄地の、やはりそういったところの草刈りを手伝ったりとか、様々な事業について、地域の方と、そのNPO団体とが一緒になって、事業を実施しておられるといったところでございます。

◆砂田典男分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 補助金事業だから、これは10分の10の補助金になってるんで、かなり厳しい、それこそ審査があるんじゃないかなというふうに思ってるんですけども、例えば、具体的な、佐治がまあまあ終わったんだけど、これは終わってるんですね、令和2年度で終わってるんですけども、要するに、事業報告はどういう形で報告されて、それで、監査があるかどうか分からんですけどね、何か今の話を聞いてみるに、ふわっとしたような形で、これをやってますというような形のもんが、だから、逢坂地区は、この次の300万円は、具体的には、どういう事業に使われるかというような、それは把握されてますでしょうか。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。地域振興課、漆原でございます。ここに小さな拠点整備事業で上げておりますのが、担い手育成のための事業でございます、人件費でございます。

◆砂田典男分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 それは、担い手育成のための人件費ということは、担い手育成、担い手の皆さんの人件費ということか。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 地域振興課、漆原でございます。ここは事務局を持ちまして、そこで勤めていただいている職員に対しての人件費というような形です。

◆上杉栄一分科員 はい。

◆砂田典男分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 ちょっとよく分からんですけどね、いずれにしても、これ、10分の10の100%補助金での事業ということになったときに、なるときに、これは、例えば、その手挙げ方式でいっとるのか、どこかに指名してやってるのか。というのが、一般の補助率のように、それこそ2分の1とか、3分の1とか違うんでね、となってきたときに、じゃあ、例えば、じゃあ佐治町は、何でここに、それこそ指名した、ここに決まったとか、あるいは、この気高町の逢坂地区っていうのは、2年続けてっていう格好の分は、前提としては、恐らく、ほかの地域でも、それだったらうちも、手挙げますよというところもあるんじゃないかなと思ったんですけども、その辺りの選考っていうのは、どういうふうを選考されたんですか。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 地域振興課、漆原でございます。佐治の場合で言いますと、まず、この担い手、小さな拠点に、まずチャレンジされる場合に、佐治全体として、どんな地域

課題があるのかといったようなところで、まずアンケート調査をされたり、それから、今度はそれを基に、どういった事業が必要なのかといったような計画づくりも策定しながら、それから本事業に入るといような形で、何年も何年にもわたって、こういった事業を実施しております。

それで、ほかの地域も同じような形で手を挙げるかといったら、そこまでそういった形での計画づくりとか、なかなかできるような地域がございません。私どものほうも、その部分について、やはり地域として、どういった未来を持っていこうとしているのかというところをしっかりと踏まえまして、これなら支援できるぞといったところについて、支援を行っているような状況でございます。

◆砂田典男分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 これは、サンセット、例えば、逢坂地区については、令和4年度、それから令和5年度、令和6年度、いつまであるか、ちょっとよく分からんだけど、大体3年ってしたもんですけども、3年ですか。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。地域振興課、漆原でございます。3年です。

◆砂田典男分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 はい。分かりました。いずれにしても、この補助率の10分の10、県、国、県の間接補助になってるようですが、市が2分の1という格好ですから、やはり、どうもその小さな拠点整備事業という名前からして、中にどういことをやってるのか、非常に分かりづらい、説明されてもちょっと、私もちょっと理解がなかなか難しいところもあるんでね。もう少し分かりやすい形で、例えば、そのさっきのお話で言うと、こういったことをできるのは、ここの地域しかないという格好で、結果としては、行政のほうから、もうそれこそ、要するに、網かけるような格好でしょう。あんたのところだったらできるけえ、やってみるかという話だけでも、この事業がずっと続くのであるならば、この事業そのものについてのPRを、各、それこそ地域のほうに下ろして、こういう事業がありますよと、やってみませんかということを、もっと公募してもいいんじゃないかなというふうに思います。一本釣りみたいな格好で、今話されたからね、それじゃ駄目だということなんです。はい、以上です。

◆西尾彰仁分科員 関連して。

◆砂田典男分科会長 西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 はい。私がおるときに、この小さな拠点事業というのを始めたわけですけど、これは、あくまで、その佐治町であると、佐治町が、そこに持続して住み続けられるような仕組みをつくるための1つの要因として、その担い手の1人の方を、NPOさじ未来というのも、これをきっかけに立ち上げて、その後コミュニティセンターのついでいますか、地区公民館の初の指定管理を受けたり、それから、有償といますか、そのバスといますかね、そういう交通のことや、それから様々なお助け事業なんか、それも、中学生以上全員のアンケートを取って、それをしっかり分析して、佐治の未来、ここに住み続けたいという方が、8割以上おられたんです、佐治町の方で、中学生以上のアンケートの中で。その中で、どういうことが課題

で、どういうことが必要なのかということをして、これ、県と市で、国はなかったと思いますけれども、採択の要綱によって、採択されたということで、私がおったときにも、各支所長会だとか、各地域振興会議でPRもしっかりさせていただいておりますが、確かにちょっとハードルは高い部分がありますので、その辺、地域構成をしっかり取って、今後も、ほかのところにもしっかり、今上杉委員さんが言われましたけども、PRをして、地域のことを地域の方で何とか課題を解決したり、活性化に向かうようなことを、しっかりPRしていただけたらと思います。意見です。以上です。

◆砂田典男分科会長 岡田委員。

◆岡田 実分科員 はい。岡田でございます。私もこの事業を見て、本当に地域の課題解決するためには、先ほどの買物難民の話もありますし、あるいは、その共助交通、交通の問題とか、様々な課題に対応できるような、逆に言うと、こういう補助金ってすごいなって、逆に思ってたところなんです。この補助金の組立ってというのは、その計画を策定されて、それから担い手という地域のリーダーを育てて、そして、最終的には、その中で事業をやっているかという組立てでありますので、様々な課題を抱えている、この本市のいろいろな地域のリーダーとなり得る方を探し出すためにも、この事業というものは、広くPRしたほうがいいじゃないかと思っていました。ホームページで見ますと、やはりこの補助要綱なども載ってるんですけども、その補助要綱だけ見ても、やっぱりイメージがつかないなっていうところがありましたもので、ちょうど上杉委員さんと同じように、ちょっとそういうところを見てたところもありましたので、こういうすばらしい補助金は、もっとPRしていただけたらなというふうに思います。意見でございます。

◆砂田典男分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 はい。続いて、事業別概要書74ページ、地域づくり懇談会開催費についてお尋ねいたします。予算自体は、すごく小さい予算だと思いますけど、でも、僕はすごく重要な事業だなと思っております。事業の内容のほうに、地域住民との直接意見交換をする懇談会を開催するとか書いてありますが、この地域住民というのは、まちづくり協議会のメンバーのことを指すのでしょうか。公募されるのでしょうか。

○北村貴子協働推進課長 はい、委員長。

◆砂田典男分科会長 北村課長。

○北村貴子協働推進課長 はい。協働推進課、北村でございます。地域づくり懇談会の参加メンバーについてお答えいたします。地域づくり懇談会の参加メンバーにつきましては、各地域で選ばれた方というところで、令和元年度から、ちょっと形を変えておまして、それまでは、どなたが来てもいいっていうようなところだったんですが、そうすると、なかなかお話も、こう建設的なお話もなかったりとかっていうこともありましたので、地域の中で人選していただいた方に出席していただいている状況でございます、ございました。以上です。

◆砂田典男分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 このような会を開催すると、非常にちょっと年齢層高めになるのじゃないかなっていうような感覚があるんですけど、その以前開催した令和元年度の頃、大体どのような

年代の方が参加してたか教えてください。

○北村貴子協働推進課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 北村課長。

○北村貴子協働推進課長 はい。協働推進課、北村でございます。この地域づくり懇談会は、鳥取市自治連合会の地区会長会を通してお知らせをいたしまして、こういったメンバーでされるかっていうのは、地域にお任せしてるところなんですけど、やはり地区会長はじめといたしまして、各地区の役員の皆様というところで、やはり年齢の高い方の出席が多かったと思います。

◆砂田典男分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 恐らく、平日の日中の開催が多かったんじゃないかなと思うんですけど、僕、市民生活部に限らず、どの課においても、やっぱりこう、明らかに市政に入っていない、若者の声が圧倒的に入っていないと、ただ、市としては、若者の流出をすごく大切にしているってことで、若い人の意見を聴いていくとか、そういう姿勢を見せるってこともすごく大切だと思うんですけども、若い方とのこういう場を設けるような想定はしていませんか。

○北村貴子協働推進課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 北村課長。

○北村貴子協働推進課長 はい。協働推進課、北村でございます。この地域づくり懇談会の開催時間でございますけれども、午後7時から大体1時間程度をしておりますので、地域の方に、こういったメンバーでっていうのをお任せしているところでありまして、協働推進課のほうとしても、若い方にぜひ出ていただきたいところではありますけれども、その辺りで、ちょっと若い方は少なかったかなというふうには思っているところでございます。今後、本当に、そういった部分の工夫であるとかっていうことは、本当に非常に大事だと思っております。以上でございます。

◆砂田典男分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 開催方法についても、この令和2年度～4年度まで、ずっと中止で、恐らくコロナの関係だと思いますけども、コロナ始まって3年、4年たつて、特に若い方が参加するってことも踏まえると、こうオンラインの開催っていうのも検討しといたほうがいいんじゃないかなと思いますが、そこら辺、いかがでしょうか。

○北村貴子協働推進課長 はい、委員長。

◆砂田典男分科会長 北村課長。

○北村貴子協働推進課長 はい。協働推進課、北村でございます。オンラインの開催ですとか、そういったところも、併せて考えていきたいというふうに思っております。ありがとうございました。

◆砂田典男分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 最後に、ちょっと参考までにとというような形なんですけど、先日、企画推進部のちょっと違う担当にはなるんですけど、旧庁舎の活用アンケートっていうので、670人の方からアンケート回答いただいて、ちょっと強く要望したんですけど、小・中学生からも声拾ってほしいっていうので、670人中599人、小・中学生から集まったんですよ。そっから集まっ

た声って、正直こう、今までのアンケートと全く違う回答が出てて、何かこう、今まで大人が若者流出防ぐとか、若者のためのまちづくりって一生懸命考えてつくってると思うんですけど、実際、声聴くと、やっぱり出てくる声って、明らかに違ってて、なのでこう、そのために、何とかこう、こっちが意見を取るための努力をしなきゃいけないかなと、オンラインで開催するとか、時間帯とか、小・中学校に働きかけるとか、何かそのような形で、もう何としても、小・中学生、あと高校生、大学生含めて、そこの世代ともつながりたいんだってという姿勢を、何とか見せるような形の懇談会になったらいいと思いますので、よろしくをお願いします。

○北村貴子協働推進課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 北村課長。

○北村貴子協働推進課長 ありがとうございます。参考にさせていただきたいと思います。

◆砂田典男分科会長 そのほかの委員の皆様で。伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 事業別概要の70ページの上段の人材誘致・定住促進対策事業費ですけど、令和4年の当初と比べて、相談窓口対応が300件増やしてる理由と、あと、お試し定住体験施設の運営ってというのが、令和4年の当初は6施設だったけど、令和5年は5施設になってる理由、それから、空き家運營業務委託が、令和4年の当初は7地域だったのが、9地域に増えてる理由、それから、ふるさと移住支援金ですかね、子供加算を増やすとかって話があったんですが、ちょっと具体的に中身を教えてください。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 地域振興課、漆原でございます。相談支援窓口の人数が増えたということなんですけれども、これは多分、コロナの影響によるものだと思われております。やはり、都市部から地方のほうに帰ってきたい人もおられますし、それから、希望を持って来られる方もいらっしゃると思いますので、そういった方々が結構増えてきたというような形で分析しております。

あと、お試しの施設でございますけれども、7から6に減ったという理由でございますけれども、こちらのほうは、運営団体のほうからの申出で、1つ減ったというような状況でございます。

空き家運營業務委託が7から9ということなんですけど、これが、浜村地区と明治地区が増えて、皆さん、地域のほう、空き家に関する関心が強いということで増えたというような状況でございます。

移住支援金、移住支援金につきましては、国の当初の方針に、方針が出まして、今後、ちょっとどのような形になるか、まだ国のほうも制度設計してないんですけれども、うちのほうでは、それよりも対応をしっかりしていこうというようなところで、単身、それから家族の子育ての世帯に対して、今600万ほど増額というような形で、考えているような状況でございます。制度として、家族の世帯と、家族世帯で申請件数が3件ほどありまして100万円、それから、子供さんがおられましたら、その1人に対して100万円というような形で、現在考えているような状況です。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 はい。お試し定住体験施設の運営で、運営団体から申出があったので1つ減ったってということで、ちょっとどの地域だったのか、差し支えなければ教えていただきたいのと。

あと、その移住支援金なんですけど、従来の移住支援金とは別で、ふるさと移住支援金というのが新たにできるという理解でいいのかなどか。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。地域振興課、漆原でございます。辞退されたところは、福部地域のほうの団体さんのほうが辞退されました。

そして、移住支援金のほうは、現在ある支援制度をリニューアルするような格好で現在考えています。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 現在の分は、東京圏、埼玉県、それから千葉県、あつ、東京圏域や、そう。埼玉県・千葉県・東京都及び神奈川県、そこから来られた方で、条件不利地域は除くってというふうに書いてあるんですけど、基本、現在、そういうところに住まわれてる方を対象の制度は、引き続きそうだといいことですか。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 地域振興課、漆原でございます。伊藤委員さんが言っておられるような形で、東京圏をとというような形で考えております。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 それで、子供加算で1人100万円って言われたんですけど、これ、2人なら200万で、3人なら300万ってことになるんだと思うんですけど、これ、そういうふうにしたのは、どういう理由からですか。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。これは、現在、まだ情報が、なかなかこちらのほうにも来ておらないんですけども、地方移住、東京一極集中を是正するような形での支援拡充だという具合に聞いております。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 はい。国が、その一極集中をなくす、なくすって言ってるんですけど、なかなかそうはならないんだと思うんですよ、現状的にね。それで、本当に1組でも、2組でも、そうやって来てきてくださればいいとは思いますが、来たら来たで、鳥取に来たら来たで、全然、来てみたら、全然もう考えてたことと違ってたっていうような声も聴いたりもして、やっぱり自然があるだけでは、やっぱり暮らしていけないわけですよ。毎日暮らしていこうと思えば、本当に地域のコミュニティーの中に、どう本当になじんで、その地域のルールなり、そういったことに慣れていき、そういったことが、本当に考えもしなかったみたいなのも聴いたりするので、本当にこの移住っていうのは、何か、ある意味難しいなって、私自身は思ってるんですよ。いいところばかり見ても、遊びに来るんならええんだけど、やっぱり

住んでいくってなると、相当なかなか、事前に情報をどれだけね、本当につかむかっていうのが必要だと思うので、なかなか、本当に決心していただくにも、時間のかかる場合もあるだろうし、すぐに決めていただける場合もあったにしても、来てみてから後悔されるようなことは、やっぱり極力、私もないほうがいいと思ってますし、そういった中で、本当にどんな情報提供をして、安心して、やっぱり住んでいただけるかっていうことを、引き続き考えていかないといけないと思うんですが、やっぱり移住された方から、いい話ばかりではないと思うんですが、聴かれてるのが。いろいろ苦情といますか、そういったこともあるかと思うんですが、そういったことを、やっぱり次の、勧誘じゃない、お誘いとかね、そういったことに生かしていかれるとは思いますが、新年度、ちょっとどういうふうな、新たな何か、そういうことがあれば教えていただけますか。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 地域振興課、漆原でございます。まさに伊藤委員さんが言っておられるような、懸念する案件は、今も聴いてるのは聴いてるんです。ただ、うちのほうは、相談支援窓口を3名体制でやっておるんですけども、その相談員が、移住される希望者の方に寄り添ったような形で相談を受けとります。その中では、当然、鳥取、四季は折々、いろんな形を見せるんですけども、当然冬が厳しいとか、そういったところもしっかり伝えております。それから、買物もなかなか、山間地だったら、中山間地だったらなかなか行けないというような、メリットやデメリットを必ずお伝えするような形で考えております。さらには、すぐ移住できるような形で考えて来られる方もいらっしゃるんですけども、そういったような方には、ちょっともう一度こちらのほうに来られることを、再考を促すような形で相談体制をしておりますので、そういった相談登録体制の部分についても、十分に充実していきたいと思っております。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 本当に決めて来られてからが、やっぱり大事な仕事かなと思ったりもするので、行政のね、こういった窓口の。さっき言われたように、メリットもデメリットもしっかりお伝えして、後悔のないようにしていただけたらなと思います、移住される方が。はい、分かりました。

◆砂田典男分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 はい。71 ページ上段の過疎地域振興事業費についてお伺いします。329万6,000円、予算ですけども、これもまた、中山間地域の活性化を目指す上で、ここでは、リーダーの強化、育成強化っていうことが掲げられていますが、この中で、事業の内容で、テーマ別専門ゼミの講座の実施ってありますが、どんなテーマを考えられているのかとか、今まで考えられたことがあるのかとかということと、それから、地域の課題について、より専門的なノウハウ・スキルを身につけるっていうことは、その学んだ人は、さらにまた上のっていうか、向上的な、また、学ぶっていうことなのか、それから、ここでは、オンラインの開催、研修を開催するっていうことで、先進的な事例を学ぶっていうことでもありますので、よその地域とのこの

交流をされるのかどうかというような、事業の内容について、ちょっとお伺いいたします。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 地域振興課、漆原でございます。実は、この日曜日に、ふるさとリーダーアカデミーが終了いたしまして、その中で、27名の新たにリーダーになった方々がいらっしゃいます。このリーダーアカデミーは、エリア別の地域の実践ゼミと、それからテーマ別専門ゼミ、さらには、麒麟のまち交流ゼミといったような形で、様々なゼミを設けております。

テーマ別専門ゼミなんですけれども、ここでは、例えば、最近有名だと言っていいんですけども、ドローンを使ったような、そういったゼミをやっておりますし、それから、ジオパークをもう一度ちょっと再認識しようというような形で、特に南部地域におきましては、ジオパークのエリアに含まれておりませんので、今後そういった南部、南部においては、ジオパークのエリアを拡大するっていうようなことを見据えたような、テーマ別専門ゼミを開催いたしております。

さらには、麒麟のまち交流ゼミといいまして、新温泉町、それから香美町さんにも、の地域住民の方にも参加いたしまして、この間、交流ゼミの発表会では、兵庫の香美町の、うへ山の棚田で、実際に若い方が、そこで武勇田というようなお米を作っておられるんですけども、そういったような発表がございました。

ですから、このリーダーにつきましては、最初のうちは、参加すればよかったというような形のものでしたけれども、今は、横の連携を取りながら、地域を超えたような形でゼミが進んでいると、私どもは認識しております。

◆平野真理子分科員 はい。

◆砂田典男分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 はい。かなり充実した横の連携だとか、この視野の広がるような、また先を見越したようなドローンの活用とか、そういう研修をされてるんだなというふうに伺いました。

このリーダー認定者数では、年々17人、24人、今年、今年度は27人ということで、さっきお話がありましたけれども、このリーダーの、先ほども、ちょっと年齢のこともありましたけれども、平均年齢とか、あと、男女別の人数とかっていうのは、平均年齢、ざくっと、ざっくりした、大体どの辺りの年齢の方っていうことでもいいですし、男女別には、どのような状況か教えてください。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 山名課長補佐のほうが答えさせていただきます。

○山名常裕地域振興課課長補佐 委員長。

◆砂田典男分科会長 山名課長補佐。

○山名常裕地域振興課課長補佐 はい。地域振興課、山名です。割合的なものはちょっと数が出ておりませんが、大体最近は大学生の方も増えてまいりました。高齢の方では70代の方

で、全体的には年齢層は高めです。男性の方のほうが多い状況です。ただ、その中でも、女性の方で取組をされておられる方もおられますし、先ほど申し上げましたように、大学生の方も、昨日の発表では、女性の方で、今年、昨年だったんですかね、市報の女性対談があったかと思います。そちらで発表されておられた方とかも、リーダーとして認定しておるところであります。最近、傾向といたしましては、そういった大学生とか女性の方の参加が増えてきているところですので、今後も、そういった様々な方が参加できるような形はつくっていききたいなというふうに考えております。

◆平野真理子分科員 はい。

◆砂田典男分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 はい。ありがとうございます。男女で、女性の方がいらっしゃる、若い方がいらっしゃるっていう取組っていうのは、大事なことだと思います。

この認定者数がこうありますけど、この、大体これぐらいとかっていうふうに、人数が、枠が決まっているものでしょうか。それとも、ある程度希望されたらとか、そういうので余裕があるものなのか、どのような感じでしょうか。

○山名常裕地域振興課課長補佐 委員長。

◆砂田典男分科会長 山名課長補佐。

○山名常裕地域振興課課長補佐 はい。大体これまでで、年間20名程度ぐらいが増えているところなんですけども、そもそも、このふるさとリーダーアカデミーという講座のコンセプトが、この前身が、元気塾という人材育成講座がありました。これが9年間あって、そこで様々な方が人材育成を学んでこられて、その方のステップアップっていうところが、主な目的でございましたので、その人数を、さらに増やしていくということではなくて、その方たちがさらにステップアップしていくと、そういったところが目的とあります。ですが、このリーダーアカデミーの段階でも、新たに講座に参加される方もありまして、それが、大体年間20名程度ずつぐらい増えてきているといったところであります。

今後も、そのような形で、やはり積み重ねでやっていくことによって、そういった人材が育成されていくと考えておりますので、人数の増やしていくことも重要だと思いますが、やはりそのリーダーの中身、地域に密着して活動していただける方の育成っていうところに、主眼を置いてやっていきたいと考えております。

◆平野真理子分科員 はい。

◆砂田典男分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 はい。リーダー育成について、状況がよく分かりました。そうすると、予算も300万ということで、前年度と同じように組まれてますけども、この予算の使い方については、何ていいますか、どうでしょうか、拡大とか、そういうことが今後必要になってくるでしょうか。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 地域振興課、漆原でございます。これも、一応サンセットの事業でございまして、はい、次に、このふるさとリーダーアカデミーをどうしていくのかという

ようなところについても、今後検討していきたいと思っております。

◆砂田典男分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 はい。ぜひ、検討して進めていただきたいというふうに思います。というのは、対象の方が、若い方が出てくるっていうことは、次につながって、また若い方にもつながっていくんじゃないかなと思いますので、ぜひ、検討して、継続を検討していただきたいというふうに思います。以上です。

◆砂田典男分科会長 そのほか。

◆西尾彰仁分科員 関連で。

◆砂田典男分科会長 西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 はい。私、日曜日に開かれました、このとっとりふるさとリーダーアカデミーの成果発表会に出させていただきました。というのは、元気塾のときから、ずっと関わらせていただいております、最近ステップアップをされるということで、大学生とか、麒麟のまち圏域の若い方の発表を聴かせていただいて、とてもいい事業だということで、12月の議会で、リーダーアカデミーのことを一般質問させていただいて、この三百何万じゃ、とてもできないから、500万とか、もっと上げたらという意見も出させていただいております。市長のほうの答弁では、前向きではなかったかなと思っておりますので、さっきの平野委員さんも言われたように、若い方も、これからどんどん入ってやっていかれる中で、地域の課題解決や活性化を、若い方やその地域の方が、自らやるスキルや能力を身につけるといって、とても人づくりの中では重要な部分ではないかと思っておりますので、もっともっと予算もついたり、もっともっと飛躍して、PRもさせていただいて、進めていただきたいなと思っております。意見です。はい、終わり。

◆砂田典男分科会長 そのほかの委員の皆様で、何かございますか。伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 事業別概要の82ページの下段、住宅省エネルギー改修等促進事業費なんですけれども、これ、1,020万が予算で、上限が20万の補助なので、大体50件ぐらいのものかなと思うんですが、この対象が、窓の改修と、あと玄関ドアの改修、この2つにされた理由を、お聞かせください。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 はい、委員長。

◆砂田典男分科会長 国森局長。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 はい。環境局、国森でございます。こちら、窓にした理由でございますが、断熱化につきましては、窓の部分の熱の出入りが、やはり7割を占めるというようなことがあります、大きな熱の出入りがあるところでは、ここが一番の部分かと思いました。

あと、窓の改修ということでは、即効性がありますし、加速化も図れるっていう意味では、そこに重点を置いて計画したところでございます。はい。玄関ドアにつきましては、窓と併せてという捉え方で考えておまして、玄関ドアのみでは、やはり効果が見れないので、部屋と併せて玄関もつという考えで、今考えておるところでございます。はい、以上です。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 てなりますと、その募集をかけるといいますか、この補助金の案内をするときに、そういったこともお知らせ、チラシ等でお知らせをするということでしょうか。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 国森局長。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 はい。そういった詳細な内容については、具体的にチラシ等、あと新聞広告等の掲載も考えておりますので、そういったところでは示していきたいと考えております。以上です。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 はい。ちょっと、この新年度に入ってから、スケジュール感を教えていただきたいんですけど、いつ、お知らせして、最終的に、工事がいつぐらいまでに終わるような感じとか、ちょっと担当課が違いますけども、住宅リフォーム助成制度がありましたよね。あれは、市内事業者を使いましょうとか、いついつまでにとか、申し込む前に、申し込んだ後は、業者にですよ、業者にもう注文した後は、もう補助金使えませんとか、いろいろ決まり事があったんですが、この分については、その制度の仕組みっていうのは、どういうふうなことになりますか。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 はい、委員長。

◆砂田典男分科会長 国森局長。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 はい。こちらの制度ですけども、国のほうのこういった窓の改修事業等、もう既にスタートしている段階です。この事業は、国の事業と併用できるような形を考えておりますので、ある程度早い段階にスタートさせたいと考えてるところですけども、申請につきましては、まず完成したところでの実績報告、申請と併せて実績と、いただくような形になるかと思っておりますので、もう既に、そういった国の募集も入ってるような状況です。できるだけ早く、はい、進めてまいりたいと考えております。以上です。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 国の制度がもう始まって、国の制度とも併用ができるっていうことなので、てなると、当然、市民に対する広報も必要ですけど、事業者さん、こういうことをされる事業者さんにも、やっぱり十分な周知が要るかと思うんですが、その点はどう考えてますか。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 はい。

◆砂田典男分科会長 国森局長。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 はい。議会のほうでもお伝えしましたけども、経済団体等のほうの連携をしまして、建築業者等とも連携を図っていきたいと考えております。はい、以上でございます。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 はい。国の制度と並行して使えるっていう話もあったんですが、これ、コロナの交付金を財源に使ってますよね。5年度はそうなんですけど、6年度以降は、この制度はどんなふうと考えてますか。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 はい。

◆砂田典男分科会長 国森局長。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 はい。今回このコロナ克服・新時代開拓臨時交付金という形で予算立てをしておりますが、こういった省エネルギー化の事業ですとか、これ1つではないんです。今後、脱炭素化を目指していくに当たりましては、あらゆる情報、国の情報ですとか、いろいろ踏まえながら、進めていきたいと思っております。以上です。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 はい。私、これ、いい制度だなと思ってまして、ぜひ、本当にどんどん活用していただきたいし、単年度で終わると、やっぱり脱炭素には向かっていけないので、先ほど局長も言われましたけど、国も、いろんな補助制度をね、やっぱり自治体に対してつくったりしてるし、今後もそれが出てくることを期待してますので、やっぱり、こういう住宅に対するこういった補助制度が、中身を変えたとしても、やっぱり継続的につくっていただきたいなと思います。

それで、ちょっと最後、これ、コロナの交付金使ってるんですけど、もし、この予算以上に申込みがあった場合は、これ、どう対応される考えですか。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 はい。

◆砂田典男分科会長 国森局長。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 はい。担当課としては、やはり増額して対応してまいりたいという気持ちで、はい、考えております。はい、以上です。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 ぜひ、それでお願いしたいと思います。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 はい。

◆砂田典男分科会長 そのほかの委員の皆様で。よろしいですか。

◆岡田 実分科員 はい、よろしいですか。すみません。

◆砂田典男分科会長 岡田委員。

◆岡田 実分科員 はい。すみません。岡田でございます。事業別概要の72ページのグリーンツーリズム推進事業費についてでございます。これ、前年度予算が175万8,000円で、今年度は12万円ということで、減額、かなり減額されてるところがありまして、そうして見るときになんですけども、今、グリーンツーリズムのこの連絡協議会の中での会員数、団体数は、10団体で活動されてるといところがございます。この10団体の今の現状の活動っていうものが、だんだんこう規模が、こう縮小してるような感じにも、これでは見えてしまったんです。

結論から言いますと、もし、そういう規模が縮小してきていて、予算を減額しなければならぬような現状だとすればなんですけども、この事業そのものについての今後の進め方とか、再検討とか、そういったものが必要なのではないのかなということ、ちょっと先走ったりした思いであるわけなんですけども、今の10団体の現状と、この予算の減額についてお伺いいたします。

○漆原利明次長兼地域振興課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 漆原課長。

○漆原利明次長兼地域振興課長 はい。地域振興課、漆原でございます。このグリーンツーリズム推進事業費ですけれども、先ほど、岡田委員が言われましたように、鳥取市グリーンツーリズム連絡会に対する事業補助金でございます。この補助金の目的が、農村地域の特性や恵まれた自然を生かして、都市住民との交流を行うことによって、地域の活性化を図っていくと、そういった団体に対して支援をしていくといったものでございます。昨年度から、約マイナス160万だったんですけれども、昨年度、実は、武蔵野市との交流事業をやっております。これが隔年でやるような格好になっております。昨年度は、コロナのためにその交流事業も中止となりまして、次回が、令和6年度に実施するというような形で、来年度は、ちょっとまた、予算を増やさせていただきたいと考えております。

あと、その10団体の活動でございますけれども、グリーンツーリズムで、様々な団体がいらっしやっております。例えば、パラグライダーとかのグループとか、それとか、民宿をされているところとか、五しの里さじ地域協議会と、そういった方々が入っておりますので、活動は、今コロナによって、なかなかそういった民宿の事業なんかもできないというところもお聞きしておりますけれども、これからは、またそれがなくなりましたら、また復活すると、私どもも考えておりますし、そういった民宿に対しての支援という形ではないんですけれども、情報提供とか、そういったところもしっかりやっていく必要があるなど感じております。以上です。

◆砂田典男分科会長 岡田委員。

◆岡田 実分科員 はい。分かりました。今の武蔵野市とのその交流が今年はなかったということで、またそれは、継続的に隔年ではやられていくような見通しということと、地域の団体さんも、ちょうどコロナによるところの活動が少なくなってたところを、これからは、また復活ではないんですけれども、そういった活動を充実されていくということで、了解いたしました。

◆砂田典男分科会長 そのほか何かございますか。

◆伊藤幾子分科員 はい。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 事業別概要の80ページの下段の個人番号カード関連事務費なんですけれども、前年度当初予算額、令和4年度の当初の予算額が6,600万だったんですね。今年度は、1億2,200万に倍ほどに増えてるんですけど、その令和4年の当初のときは、令和4年度の末までには、ほぼ全国民がカードを持つということを国が目標にしてて、それで鳥取市は、毎月、毎月6,779枚の交付っていうのが、国のほうから計画として示されてて、それに必要な予算が令和4年は当初に組まれてたと、そんなふう聞いてるんですよ、去年ね。ところが、このたび、こんなに倍ほど増えてるのは、まず、国から月々の目標、そういう目標枚数が示されているのかっていうことと、あとその予算の積算根拠ですね、ちょっとそれ、教えていただけますか。

○西垣隆司市民課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 西垣課長。

○西垣隆司市民課長 はい。まず、目標ですけれども、引き続き令和4年度は、この6,000枚、

6,700枚以上、6,700、毎月6,700枚ぐらい、これを配っていこうという目標を立てておりました。実際は、なかなかそういう実績には至らなかったという事柄がございます。

あと、予算が倍増した経費、内容について御説明させていただきます。まず、大型商業施設に、引き続き申請窓口を開設する経費が、これが大体4,200万円余り、大型商業施設に支払う賃料ですね、テナント料、これが390万円余り、あと、今カードがたくさん届いて、2月末にカードの申請させていただきまして、これからカードの交付をしていかないといけませんので、各総合支所のほうに、半年間、6か月間なんですけれども、会計年度任用職員を雇用できる経費、これが9,500万円余り、あと、最後に、これは実績払いにはなるんですけれども、郵便局と新たに連携して、郵便局でもマイナンバーカードの申請を受け付けることができるようにする経費、これは実績払いですが、これを430万円余り、この辺りが、予算が増えていった経費で、内訳でございます。以上でございます。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 新年度は、国からの目標っていうのは、示されてないってことでいいですか。

○西垣隆司市民課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 西垣課長。

○西垣隆司市民課長 はい。現時点では、具体的な目標は、示されておりません。以上です。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 事業別概要書に、令和4年度の交付率の見込みが67.0%ってなってるんですけど、ちょっと改めて、この交付率っていうのは、申し込んでから手元に来ますよね、手元に。その手元に届いた率なのか、申請した率なのか、それはどちらですか。

○西垣隆司市民課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 西垣課長。

○西垣隆司市民課長 はい。市民課、西垣です。こちらの交付率は、申請された方のお手元に届いたカードの、件数になります。以上です。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 はい。交付通知書が届いても、受け取りに来ない人には、催促通知が出されるっていうふうに聞いているんですね。その催促通知を出した翌月から、3か月たっても受け取りがなかったら、カードは交付取りやめとなって、一応廃棄となると。また、必要だったら、改めて申請しないといけないっていうふうに聞いているんですが、その件数は、大体鳥取市でどれぐらいあるものですか。

○西垣隆司市民課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 西垣課長。

○西垣隆司市民課長 はい。市民課、西垣です。まず、先ほど、伊藤委員がおっしゃられたとおり、以前は総務省のほうから、そのような通知が出ておりましたが、このコロナが広まった時点で、3か月っていうのは撤廃されまして、いつ、カードを申請された方がカードを受け取りに来られるか分かりませんので、期間は示されてませんが、カードのほうは保管しておくようにというふうなことになっておりまして、廃棄はしていないという状況でございます。

枚数ですが、少し動きがありますので、今、ちょっと正確な数字はつかんでないというところでございます。以上でございます。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 分かりました。枚数は急ぎません。なぜ、それを聞いたかっていうと、ちょっと私、国のほうが、そのコロナ禍で、廃棄をやめてる、通知を出すのをやめてるっていうことで、一応手元に、行政の手元にある状態で、廃棄というのではない。だから、何というか、申請イコール交付っていうような数になるのかなと思うんですけどね、国のほうが、そのマイナンバーカードの交付率によって、お金をね、自治体に出すお金を上乘せしたり、いろいろとそういう交付率っていうのを使ってますよね。その交付率、交付率って言うてるのを、申請率っていうふうに国は言うてるんですよね。だから、申請率だと、実際、もし、取りに来てない人の分までが入ってるわけですよ。申請率の上位のところから加点が多くて、いろんな補助の上乗せに使われてるっていうね、そういうことで、本当に、国は本当にやりたい放題だなと思ったので、ちょっと聞かせていただいたんですけどもね、そういうことです、本当にね。結局はそうなんですよね。つり上げて、つり上げてね、7割以上交付されてないとしか使えない補助金だとかね、そういったこと。なりふり構わずだと私は思ってますが、新年度の予算の中身は分かりました。はい、ありがとうございます。

◆砂田典男分科会長 はい。そのほかよろしいですか。

◆平野真理子分科員 すみません。

◆砂田典男分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 市民音楽祭、すみません、鹿野町総合支所の町民音楽祭開催費、259 ページ下段です。これは、取り組まれてから、既に37周年を迎える取組されてますが、この事業の内容の中で、ふるさとミュージカル「さくら姫物語」っていうのが、上演事業とされ、予定されてますが、もうこれは、これから募集したり、取り組んだりされる内容でしょうか。

○岡本幸子鹿野町総合支所長 はい、委員長。

◆砂田典男分科会長 岡本支所長。

○岡本幸子鹿野町総合支所長 はい。鹿野町総合支所、岡本でございます。このふるさとミュージカルなんですけれども、古くからやっています、ちょっと正確には覚えてないんですけども、3つか4つ、たしか同じようなメニューっていいですか、舞台公演の事業を持っております。今現在では、「さくら姫物語」を予定、予定公演とさせていただいておりますけれども、5年度は、冬の上演を予定しているようでして、実行委員会形式で、これは運営されているんですが、それによって、例年上演者、演者を募集したりっていうようなことをやっておりますので、おっしゃるように、これからそのような方々を募集をかけて、つくり上げていくという形になっております。以上でございます。

◆砂田典男分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 はい。ありがとうございます。コロナのこの状況も、マスクを取っていかとか、2類から5類にとか、様々変化する中で、今まで中止がされてあったりしたのが、新しく活気づいていくかなというふうに思います。

鳥の劇場についても、新たな、いろんな整備の取組とかが考えられていますし、やはり、この鹿野町が、町民音楽祭っていうことをしているっていうことが、広く流布され、また鳥取市の中でも、それがまた誇りとなり、また、ここにも書かれていますように、多世代間交流の促進とか、様々な目的・効果が書かれていますけども、やはり鹿野町っていう中で、そういうことがされてるっていうことを、町民の皆さん、町民というか、鹿野町の方々が、やはり知ってるよというか、皆さんが関わられるような、一部の人の取組ではなくて、そういった、この波及も大事ですし、また、ここでは、市民会館で開催されるっていうことでもありますので、鳥取市の人たちが見に行って、関心を持っていただけるような取組をしていただきたいというふうに思います。以上です。

◆砂田典男分科会長 そのほかございますか。伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 事業別概要の86ページの上段と下段なんですけど、まず、家庭ごみ有料化事業費で、これ、令和5年度は分別ガイドを改訂して、全戸配布を行うってあるんですが、これ、市報と一緒に多分配られるのかなと思ってますが、もし、市報と一緒にあれば、町内会に入っていなかったりとか、市営住宅で、本当に町内会ないところなんかは、市報が届かないんですけど、そういったところは、どのようにして届くようにする考えなのか聞かせてください。

○上田光徳廃棄物対策課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 上田課長。

○上田光徳廃棄物対策課長 はい。分別ガイドにつきましては、基本的には、配布方法は、今現在、委員がおっしゃられたとおり、市報と一緒に配布をするということで予定をしているところでございます。最近、近年、町内会に属さない方だとか、あとはアパート等に入ってない方、ところが多くなってきたことで、アパート等につきましては、そのアパートの団体、経営している、その設置をしているメーカーさんのほうを通じて、そういった団体を通じて配布をするということも考えておりますし、あと、その地域の中でも、町内会に入っておられない方、そういう方は、どの方が入っておられて、入っておられなくてっていうのが分かりませんので、一応ホームページでありますとか、そうした機会を通じて、御希望の方には市役所のほうで配布をします、支所のほうで配布をしますという具合に、アナウンスをさせていただきたいということ考えているところでございます。以上です。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 防災の大きな黄色いやつは、大型商業施設に置いてあったりするんですけど、そういった、そういうスーパーとかね、そういうところに、御自由にお取りくださいという形で置く考えは、あるのかないのか。

○上田光徳廃棄物対策課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 上田課長。

○上田光徳廃棄物対策課長 はい。ありがとうございます。そういう予定はしてませんでしたけど、全戸配布をする分別ガイド、プラス随時配布をするというやつも準備していますので、また商業施設等でも配布はさせていただけるということであれば、幾らか置かせていただくということも考えていきたいと思ってます。

ただ、鳥取市のごみの収集方法、分別方法と、近隣4町の分別方法も、若干違っていたりする部分もあります。ガイドの中には、いろんな関連する部分も、いろんな記載もあったりするものですから、間違っ、鳥取市の分別ガイドを、例えば、八頭町の方が持って帰られて、それを参考に出されてとなつてはいけませんし、その辺りも含めて、ちょっと検討させていただきたいという具合に考えます。以上です。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 ちょっと次、下のごみ減量化推進事業費で、段ボールコンポストじゃなくて、生ごみの堆肥化の容器とか、基材の購入費なんですけど、今年度は、希望の方が多くて、増額の補正の対応していただいたんですが、これ、令和5年度も、やはり予算が足り苦しくなると、増額の補正の対応をするという理解で、いいのかどうか。

○上田光徳廃棄物対策課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 上田課長。

○上田光徳廃棄物対策課長 廃棄物対策課、上田です。令和4年度は、当初12万円の予算を、補助金の予算を組んでましたが、そこに追加をして、補正で20万円ということにさせていただきました。令和5年度は、その令和4年度補正後の額に合わせて、20万円ということで予定をしております。令和4年度と同じように、その交付の状況見ながら判断はしていきたいという具合に考えておまして、実は、令和4年度、今年度増額はしたんでありますが、昨日でいっぱいになりまして、その予定をしていた20万円が、昨日の申請で全て使い切ったという状況になりました。状況的に、もう令和4年度終わりになりますので、3月の途中でいっぱいになったんですが、補正をするということまで至ってませんが、令和5年度も、状況を見ながら、また補正が必要であれば、補正をしていきたいという具合に考えております。以上です。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 はい。やっぱり市民の方が減量化に取り組むという、ごみの減量化に取り組むということなので、本当にそこは丁寧に対応していただきたいのと、それと新年度、新年度は、ごみ袋代が据置きということになりました。この間、いろいろ環境審議会とかでも議論をされて、答申が出て、据置きになったんですけどもね、新年度予算で、環境審議会の予算も上がってるわけなんですけど、新年度、何をされるんでしょうか。

◆砂田典男分科会長 国森局長。

○国森加津恵環境局長兼生活環境課長 はい。環境審議会ですけども、4回、今計画、予算では4回計画しております。先ほど報告で説明いたしました、脱炭素ロードマップの調整等もごぞいますし、臭気規制基準等の関連もありまして、計画としては、4回計画しております。そういった中でも、先ほどありました一般廃棄物処理手数料等の協議も重ねてまいりたいと考えております。以上です。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 はい。答申の附帯意見で出てるんですよ。いろいろ比重の問題もそうなんですけれども、やっぱり継続して内容を精査して検討を行っていくっていうようなことが、附帯意見で書かれていますので、いよいよこう、ごみ袋の値段をどうしようかっていうときだけ議

論するんじゃないかって、やっぱり継続的にいろいろと検討しなきゃならないっていうことが附帯意見であるので、これが、新年度からどのように対応されていくのかっていうのが気になったところなんですけど、先ほど一般廃棄物のことについてもっていうお話もあったので、この附帯意見に基づいて、やっぱりそういった取組が新年度からされていくということで、よろしいんでしょうか。

○上田光徳廃棄物対策課長 委員長。

◆砂田典男分科会長 上田課長。

○上田光徳廃棄物対策課長 廃棄物対策課、上田です。はい。委員のおっしゃるとおり、審議会の中でも、その比重の問題でありますとか、財源ですね、その袋代の収入の財源でありますとか、そういったところも含めて議論をしていこうというところで話をしていますので、これは、これまでの審議会でいきますと、諮問をして、そのことについて議論いただく、答申をいただくという流れでしたけども、その諮問に限らず、年間通しながら、この3年間の間にずっと議論をしていきたいということで考えているところでございます。以上です。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員。

◆伊藤幾子分科員 それは本当に大事なことだと思いますので、ぜひお願いしたいのと、なぜ、家庭ごみのごみ袋代を引き下げるべきだっていうことを、ずっと言ってるかっていうと、そもそも、家庭ごみ有料化のときに、ごみ処理経費の1割程度って言ってたのは、鳥取市なんです。鳥取市が自ら言ってるのに、今2割ぐらい占めてるわけで、自分たちが言ってることが、自分たちの言ってることに反してるのが鳥取市なので、だから、まずはその部分はっていうこと言ってるので、そういったことも含めて、審議会でいろいろと議論していただけたらと思います。以上です。

◆砂田典男分科会長 そのほかよろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 はい。

議案第7号令和5年度鳥取市墓苑事業費特別会計予算（質疑）

◆砂田典男分科会長 それでは、次に、議案第7号令和5年度鳥取市墓苑事業費特別会計予算についての質疑を行います。質疑、御意見のある方は、順次御発言をお願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 はい。

議案第13号令和5年度鳥取市電気事業費特別会計予算（質疑）

◆砂田典男分科会長 では、次に、議案第13号令和5年度鳥取市電気事業費特別会計予算の質疑を行います。質疑、御意見のある方は、順次御発言をお願いいたします。

（「ありません、なし」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 はい。

それでは、執行部におかれましては、これで御退席ください。市民生活部の皆様、お疲れさまでした。

◆砂田典男分科会長 それでは再開いたします。

◆西尾彰仁分科員 はい。

◆砂田典男分科会長 皆様からの質疑及び意見、執行部の答弁の中で、分科会長報告に盛り込むべき事項として御意見がありましたら、順次御発言をお願いいたします。

事業件数としては、かなりのボリュームで出ました。1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、12件出ています。どの案件に絞るか、皆様の御意見をお願いいたします。

まず最初から、西尾委員から、ごみ収集委託費の件、次が岡田委員の、中山間地域の買物支援の件、次に上杉委員から、小さな拠点事業費の件について、これは西尾委員と岡田委員も御意見がありました。次に柳委員から、地域づくり懇談会の開催費について御意見がありました。次に伊藤委員から、人材誘致・定住促進対策事業費について意見がありました。次に平野委員から、過疎地域の振興事業費の件がありました。これは西尾委員も御意見がありました。次に伊藤委員から、住宅省エネルギー改修等促進事業費ですか、その件がありました。次に岡田委員から、グリーンツーリズム推進事業費の件がありました。次に伊藤委員から、個人番号カード関連事務費についての御意見がありました。次に平野委員から、鹿野の町民音楽祭の件の御意見がありました。それで、最後に伊藤委員から、家庭ごみの有料化事業費とごみ減量化推進事業費についての御意見がありました。以上、たくさん意見が出た中で、どの事業に絞りましょう。

◆西尾彰仁分科員 いいですか。

◆砂田典男分科会長 はい、西尾委員。

◆西尾彰仁分科員 小さな拠点事業っていうのは、ちょっとハードル高いんですけども、とてもいい事業なので、この小さな拠点事業を、もっとPRなり、宣伝をして、周知をして取り組むように、行政のほうとして、徹底して努めていただきたっていうのはどうでしょうか。

◆砂田典男分科会長 ただいま西尾委員から、小さな拠点事業費を取り上げたらどうかという意見が出ましたけど、皆様のほうから、御意見がございますか。

◆岡田 実分科員 はい。

◆砂田典男分科会長 岡田委員。

◆岡田 実分科員 はい。いいでしょうか。私もですけども、小さな拠点事業費ということで、やはりこれは、地域課題の様々な課題を解決していく1つのツールとして、これから期待される事業ではなからうかと思しますので、これを上げることは賛成です。

◆砂田典男分科会長 長坂副委員長。

◆長坂則翁副分科会長 私は、例のトスクが閉店をするというんで、既に佐治なんかは、9月末、10月末で閉店しとるんですよ。用瀬も、もう近々する。ただ、岡田委員の質問は、申請上の問

題で、抜本的に、今の買物弱者、買物難民をきちっとフォローしていくための施策展開を求めた内容ではなかったものですから、私は、ちょっと報告にはそぐわないなと思いますので、その買物のほうの関係は。だから、小さな拠点でいいんじゃないかなと、私も思います。以上です。

◆西尾彰仁分科員 はい。

◆砂田典男分科会長 柳委員は、どう思われますか。

◆柳 大地分科員 いいです。

◆砂田典男分科会長 伊藤委員は。

◆伊藤幾子分科員 はい。

◆砂田典男分科会長 よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 平野委員は。

◆平野真理子分科員 いいです。

◆砂田典男分科会長 よろしいですか。

◆平野真理子分科員 はい。

◆砂田典男分科会長 それでは、小さな拠点事業費というのを取り上げたいと思います。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 それでは、よろしく願いいたします。

それでは、予算審査特別委員会総務企画分科会を一旦休憩いたします。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 再開は1時30分といたします。

午後0時23分 休憩

午後1時29分 再開

【監査委員】・【選挙管理委員会】・【出納室】・【市議会】

◆砂田典男分科会長 皆さん、こんにちは。

（ ） こんにちは。

◆砂田典男分科会長 ただいまから、予算審査特別委員会総務企画分科会を再開いたします。

議案第1号令和5年度鳥取市一般会計予算のうち所管に属する部分（質疑）

◆砂田典男分科会長 それでは、議案第1号令和5年度鳥取市一般会計予算のうち、所管に属する部分の質疑を行います。

まず、監査委員の所管に属する部分について、質疑、御意見のある方は、順次御発言をお願いいたします。

（「ありません、なし」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 皆さん、よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 はい。

次に、選挙管理委員会の所管に属する部分について、質疑、御意見のある方は、順次御発言をお願いいたします。柳委員。

◆柳 大地分科員 はい。事業別概要書 248 ページ、選挙啓発推進費について教えてください。かなり投票率、市長選も市議選も、かなり低くなってるということで、事業の実績っていうのが書いてありますが、令和5年度、何か新規で計画してるものはありますでしょうか。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい、委員長。

◆砂田典男分科会長 馬場局長。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい。特に新規でということは、予算上はございません。

◆砂田典男分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 選挙の投票率が低くなると、僕自身は、やっぱり、まず一番は議会の議員のメンバーがもっと頑張らなきゃいけないっていう、発信だったりっていうのが前提なんですけど、改めて、この選挙啓発推進って、物すごく僕は大切だと思っていて、予算ももっとつけていいんじゃないかっていうふうに思っている状況で、今、現状、過去を見ても、かなり低い状態で、こう新規を打っていかないっていう、そこはどうなのかなと。あと、逆に、現在、こう今まで行われてきた、このソフトバレーボール大会だったり、これ費用対効果であったり、各地で、鳥取市以外もされてるのは知ってるんですけど、長い間続いてきて、こうやられてはいるんですけど、こういうところ、費用対効果だったりってところを踏まえて、新規事業を打たない理由をちょっと教えてください。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい、委員長。

◆砂田典男分科会長 はい、馬場局長。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい。昨年度、ソフトバレーボール大会も3年ぶりできて、街頭啓発も、市議選のときにやったのも、これも、ここの選挙の中で、令和3年の衆議院選挙から、ずっとこの3年間はコロナの影響で、皆さんもそうなんだろうけども、選挙活動のほうも制約があったりして、選管のほうとしても、この、いろんな啓発活動を、なかなか接触することをためらうような時期が続いたもんですから、昨年市議選から、ようやく街頭活動と、その12月にソフトバレーボール大会をしたんですけども、参加者も、ごくごく絞った形でしてるということもありましたので、ここでまた新たに、新規のものを何かあれば、それは当然、取り入れていきたいんですけども、全国的に、あまり新規の取組っていうのが、これが、これだっというような新規の取組で効果を上げてるところが、今のところなかなかないので、私たちも、議会のほうからも、そんな質問受けとって、何かいいアイデアがないかなっていうことで、いろいろ考えてるところですけども、直接これだっというふうな、結びつくようなアイデアが、まだ思い浮かばないものですから、手をこまねいているわけではないんですけども、いろいろ、ない知恵を絞ってはいるんですけども、思いつかないというところがございます。以上です。

◆砂田典男分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 学校の主権者教育、今、もう必ずやらなきゃいけないっていうような形になり、僕も社会科の教員だったので、学校同士が集まって、その主権者教育の担当の者が集まるとの会議だったり、もう年何回か集まってるんですけど、どこの学校も、やっぱり主権者教育って、すごくこうやっていくのが難しいというか、なかなかこう打つ手が少ないというところ、市のほうも、こういうの進めていくのであれば、もっと学校入っていったほうがいいのかなって僕は思って、学校にこう、逆に、この行政側から学校側にアプローチすると、学校は物すごくやりやすいというか、もちろん、逆もそうかもしれないですけど。もっと、この学校のほうに入っていくっていう作業が、僕はすごく大切なんじゃないかなと思うんですけど、そこは何か難しい点とかありますでしょうか。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい、委員長。

◆砂田典男分科会長 馬場局長。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい。選管事務局長の馬場でございます。先ほど言ってますけども、ここ二、三年間は、コロナの影響で、学校のほうにも断られるということがあって、昨年からは、中学校のほうに行き、何ちゅうんだったいな。国府に行ったときには、3年生を対象に、何十人かでしたりしてますけども、どうしても、今までやってたところと違って、小ぢんまりとしてくれと。来る職員も、今まで3人、4人で行ったのを、1人にしてくれと。どうしても、この外との接触を、学校が一番嫌うんでね、そこは私たちも、入っていきたいっていう気持ちは重々あるんですけども、無理やりっていう、今のこの時期がもうすぐ過ぎたら、積極的には取り組んでいきたいと思えますけども、ちょうどこの選挙、2年間続いた選挙の間が、時期的に非常に苦しい、選管としても苦しい時期だったということは御理解いただきたいと思えます。

◆砂田典男分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 そのような状況は重々承知なんですけど、学校側も、逆に、このコロナ禍で、物すごいギガスクール構想が進んで、今、どこの中学校も小学校も、オンライン設備がかなり整ってるような状況で、逆に言ったら、この二、三年で、そういうオンラインを使って、こう何かをやりますっていう事業者は、かなり学校、受入れ、今までよりずっと緩くなってるんですよ。なので、何かこう、そういうところも、もう本当にこう、正直言えば、やり方次第で幾らでもできるというか、もっと学校入って、学校に限らないですけど、何かこう、本当にこのソフトバレーボール大会が、そもそも、すごく費用対効果があるとか、もう費用対効果がないのであれば、僕はむしろやめるべきだと思うし、何かもう、やり方次第で、もっともっとできること、たくさんあるのになあとあって、オンラインを活用し、今年も、コロナ5類になりますけど、実際まだ爆発するかも、また増大するかも分からないっていうところで、そういうところをちょっと制度を整えていくっていうのは、いかがでしょうか。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい、委員長。

◆砂田典男分科会長 はい、馬場局長。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい。選管事務局長の馬場でございます。いろいろと研究はして、引き続き研究はしていきたいと思えますので、何かいい提案とかございましたら、ま

た教えていただければ、いろいろと研究してみたいと思いますので、よろしくお願いします。

◆砂田典男分科会長 よろしいですか。そのほかの委員の皆様で何かございますか。いいですか。
はい。柳委員。

◆柳 大地分科員 すみません、もう一点なんですけど、これ、こういう事業つくるときって、前回の選挙の投票結果とか、そういう投票行動をすごく分析して、その結果、こういう次、事業を打っていくっていうのは、僕、大切っていうか、基本だと思うんですけど、その前回のこの、例えば市議選であったり、市長選のその投票行動、そこら辺の分析っていうのはいかがになってますでしょうか。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい。

◆砂田典男分科会長 馬場局長。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい。選管事務局長の馬場でございますけども、何回か議会のほうでも質問受けて、お答えしてるんですけども、投票率っていうのは、立候補された人数と、政策の、政策論争ですね、とかで、大分投票率が変わるものですから、あまり言いたくないんですけども、政策論争のないような選挙のときには、選管としては打つ手が非常に難しいです。もう来てもらう、投票所に来ていただきたいんですけども、なかなか関心を持っていただくようなテーマはないものですから、それを選管の力で何とかっていうのは、努力はしてないわけではないんですけども、マスコミなんかにも出るようにはしてますけども、まず、世間の関心がないってことには、なかなか。投票率っていうのは、こうずっと低下傾向にあるものですから、いろいろと、若者なんかの投票率が一番低いんで、先ほど言ったように、学校なんかとタイアップして、主権者教育っていうのをしているんですけども、18歳は、投票率が19歳と比べて、一番、まあいいっていうのは、19歳になると、県外、大学に行ったり、県外の大学に行くんで、19歳～二十三、四歳ぐらいのところ、一番投票率が低いっていうのは、どの選挙も、全体が下がっても、それがどの選挙もこう、こういうカーブになってるものですから、そこ、高校3年生なんかの人は、まだ在学してるんで、鳥取にいて、投票率のほうが上がると、県外に行かれた方で、本来なら住所を移さないといけないんですけども、住所を残したままで行ってる方について、じゃあ、その人が県外に行ってるかどうかっていうのは、選管では絶対分かりませんので、本人が不在者投票の依頼をしない限り。そういうような、いろいろな問題があって、なかなか分析をするっていうのは、もう全体的に同じ流れなんで、一応ターゲットを絞ってはいるんですけども、選管の力だけでどうにもならないのかなっていうのが実感でございます。以上でございます。

◆砂田典男分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 今回、50代以上の投票率、50代、60代、70代の下落率よりも、20代、30代の下落率が低かったと思うんですね。上の世代がかなり投票率下がってて、20代、30代も、下がってはいるんですけども、その下がり具合が小さくて、そこは何か要因が、どのように考えてますでしょうか。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい。

◆砂田典男分科会長 馬場局長。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい、選管事務局長の馬場です。そこまでの分析のほうは、実際できておりません。

◆砂田典男分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 すごくちょっと言い方があれですけど、正直それって、本当基本的な、僕は分析だと思ってる、数字も、実際ホームページで公開、選挙管理委員会自体がされてますし、直前の政策論争のどこに関しては、どちらかという、議員側の責任というか、議員がきちんとその政策を、こう明示できてないっていう、そこはすごく、どちらかといえば、議員側の課題だと思うんですけど、どっちかという、選挙管理委員会とかの啓発って、直前じゃなくて、4年間かけてやっていくものだと思うんですよ。だから、その政策どうこうっていうよりは、4年間で、その選挙に対する意識とか、その立候補者をこう、立候補者育てるというか、その選挙にもっとこう関心持っていくっていう、とても僕は、正直ここの事業が、そこにこう、もちろんやらないよりはいいと思うんですけど、何かこう寄与できると、正直思えなくて、それでも、年間100万円税金が使われてるっていうことが、本当にこのソフトバレーボール大会に予算をつける必要があるのかっていう、何かそういうところも含めて分析、まず分析から始めて、どこのターゲット層に、どういうふうに打っていくのかっていう、何か僕は、この税金使ってやってる以上は、もっとやらなきゃいけないのかなっていうふうに思うんですけど、そこら辺いかがでしょうか。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい。

◆砂田典男分科会長 馬場局長。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい。選管の馬場でございます。ソフトバレーの件なんですけども、以前は普通のバレーボールをやってたんですけど、ママさんバレーのほうを。このソフトバレーっていうのは、年齢構成がですね、140だかと、4人でするんで240か、210と240だったと思いますけども、年齢構成を幅広く取っていただいて、参加資格として、それで、家庭に行ったら、子供さんたちと話をしたりしていただくようにパンフレットを渡したり、開会式でもそんな話をしたり、閉会式でもそんな話をしたりしてやってたんですけども、今までは介護職とか、そういう方の参加も大変多かったんですけど、90チーム以上あったり、100チーム近いときもあったんですけども、何回も言いますように、今回、介護職の方とか看護職の方は、当然参加を見送られたということで、非常に9チームしかないんで、ちっちゃく見えますけども、それまではいろいろやってた、人数もあったんですけども、今回は何遍も言いますが、特に人数を、参加者が少ないだろうということを想定した上で、でも、何もしないという選択肢はないだろうということで、何とか無事に開催することができた大会だったとは思っております。以上です。

◆砂田典男分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 そこで話が戻るんですけど、であれば、この令和5年度は、ある程度緩和が広がるっていうところで、できること、もっと広がると思うんですよ、確かにコロナ収束してないですけど。今までコロナで、やっぱり数年動けなかったっていうところであれば、この令和5年度から、一気にまた、こう動いていかなきゃいけない年っていうところだと思うんです

けど、そこで新規事業が僕は出てこないっていうのが、もちろん難しい事業だっていうのも、すごく重々承知なんで、難しいというか、なんですけど、こう新規事業を本当に打たなくていいのかなっていうところなんですけど、いかがでしょうか。

◆砂田典男分科会長 馬場局長。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい。その新規事業、何度も言いますが、新規事業、これが、これをすればというのがあれば、それは当然、取り入れていきたいんですけども、今まで言われたように、主権者教育に力を入れてしていくのは、一番地道だけでも、一番、将来にわたって効果があるのかなというふうな期待はしていますので、コロナが大分落ち着いてきたら、また学校のほうに赴いて行って、それは、主権者教育のほうには力を入れていきたいというふうには思っています。

◆砂田典男分科会長 柳委員。

◆柳 大地分科員 学校は、本当にやり方次第で、幾らでも求めてると思うので、逆にこう、受け入れにくいものは受け入れないっていう、ただそれだけなんですよね。なので、受け入れやすい方法をこっちから提案するっていうのも、すごく大切だと思うので、ちょっとその視点を持って、ぜひ、再三述べてますが、一番の課題は、僕は議会、議員の啓発活動が弱いっていう、それは重々承知の上なんですけど、一緒にこう、もっとこう啓発推進していけたらと思いますので。逆に、何か御協力できることがあれば、もう、もしかしてちょっと難しいのかもしれないんですけど、できることあれば、一緒に推し進めていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

◆平野真理子分科員 すみません。

◆砂田典男分科会長 平野委員。

◆平野真理子分科員 先ほど、局長のほうから、鳥取市の場合、転出したときに、住民票を持っていかずに、親御さんとここに置いとくというケースもあるっていうことだったんですけど、その場合でも投票はできるんですがね、できますよね。そういったことが、どうやったらそのやり方があるのかっていうことを、やっぱり複雑に思われる方もあるかもしれませんし、何かそういう、ここに書いてあります啓発教材を配布とかってあるんですけど、そういう、いろんなやり方とか、そういった関心持ってもらわないと、それも読んでもらえないかもしれませんけど、何かその、こういうやり方、投票の仕方があるっていう、もう、もう権利なんだっていうことで、もう少しその辺も啓発をしてもらったらいかなっていうふうに考えてるんです。その辺はどうなんでしょうか。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい。

◆砂田典男分科会長 馬場局長。

○馬場睦雄選挙管理委員会事務局長 はい。選管の事務局長の馬場でございますけども、引越された方には、市民課の窓口でそういうものを、パンフレット、総務省が出してるパンフレットなんですけども、不在者投票できますよとか何とかというようなものを出すんですけども、これ議事録に残るので、あまり言いたくないんですけども、住民、住基法上2週間で異動届を出さないと罰則もありますので、本来なら、生活の拠点のあるところに住民票は絶対移さない

といけないんで、一応サービスとして、うちのほうも、分かっている人には事前に出すんですけども、これはあまり大きな声では言えないということがありますので、御勘弁いただきたいと思えます。

◆砂田典男分科会長 そのほかよろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 はい。

では、次に、出納室の所管に属する部分について、質疑、御意見のある方は、順次御発言をお願いいたします。よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 はい。

次に、市議会の所管に属する部分について、質疑、御意見のある方は、順次御発言をお願いいたします。よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 はい。

以上で、質疑を終結いたします。

執行部におかれましては、ここで御退席ください。どうもお疲れさまでした。

（ ） お疲れさまでした。

◆砂田典男分科会長 はい。では、皆様からの質疑及び意見、執行部の答弁の中で、分科会長報告に盛り込むべき事項として御意見がございましたら、順次御発言をお願いいたします。

◆上杉栄一分科員 選管しか出とらあへんな。

◆砂田典男分科会長 選管しか出てませんね。

◆砂田典男分科会長 中川さん。

○中川真理市議会事務局議事係長 これまでの例としては、各種委員会で選定するというのが、そう数多くはありません。なので、上げるべきものが特になければ、各種委員会の中では、なしということになりまして。これまで選んでいただいたものを、分科会長報告とするということになるかと思えます。

◆砂田典男分科会長 はい。今、事務局から説明がありましたけど、そのような方針でよろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 それでは、2日間にわたり予算審査を行い、総務企画分科会長報告に盛り込む事項を、市史編さんと、環境大学と、小さな拠点づくりで、3つ案が出たんですけど、その中で、委員長報告に盛り込むべき事項は、どれにしたらいいと思えますか。皆さんの御意見をお伺いします。3つを1つに絞る。

◆上杉栄一分科員 ああ、分科会長は。

（「1つ」と呼ぶ者あり）

◆上杉栄一分科員 3つか。委員長報告が1つか。

◆砂田典男分科会長 中川さん。

○中川真理市議会事務局議事係長 はい。分科会長報告は、今、委員長からもありました3点選んでいただきましたので、特別委員会の中での総務企画分科会長の報告には、この3点を述べさせていただきます。

今、委員長のほうからありましたのは、最終日に委員長報告がございますが、その中で、この総務企画分科会の中から1点、はい、どれを委員長の報告として本会議義の中で報告するかということで選考していただければと思います。よろしくをお願いします。

◆砂田典男分科会長 御意見を。市史編さんと、環境大学と、小さな拠点。これ3つのうちを1つに絞らないけんだが。

◆平野真理子分科員 市史編さんが一番いいかな。

◆長坂則翁副分科会長 皆さんの意見が出なんだから、いいかもしれん。

◆砂田典男分科会長 じゃあ、長坂副委員長。

◆長坂則翁副分科会長 皆さんから意見が出んようでしたら、議論、質疑をずっと聞いておって、私は、市史編さんを委員長報告に盛り込んでもいいんじゃないかな、あくまで、これは私の私見ですけども、と私は思います。皆さん意見がないものですから、あえて言いました。

◆西尾彰仁分科員 はい、結構です。

◆砂田典男分科会長 そのほかの委員の皆様は。

◆平野真理子分科員 いいです。

（「はい、はい」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 よろしいですか。それでは、市史編さんの件を委員長報告とさせていただきます。よろしいですね。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆砂田典男分科会長 はい。

◆砂田典男分科会長 それでは、予算審査特別委員会総務企画分科会を終了し、総務企画委員会を開催いたします。

総務企画委員会に切替え 午後1時54分 閉会

令和5年2月定例会

総務企画委員会・予算審査特別委員会総務企画分科会

日時: 令和5年3月14日(火)

10:00~

場所: 本庁舎7階第1委員会室

市民生活部

《 総務企画委員会 》

◎議案【先議分以外：質疑・討論・採決】

議案第48号 鳥取市の特定の事務を取り扱う郵便局の指定の取消しについて

議案第50号 辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について

議案第51号 鳥取市過疎地域持続的発展計画の変更について

議案第53号 財産の無償貸付けについて

◎報告

報告第2号 専決処分事項の報告について（協働推進課）

地域振興会議の設置までの経緯と今後の検討スケジュールについて（地域振興課）

鳥取市脱炭素ロードマップ（案）について（生活環境課）

公用車の事故について（青谷町総合支所）

《 予算審査特別委員会 総務企画分科会 》

◎議案【予算審査分：質疑】

議案第1号 令和5年度鳥取市一般会計予算【所管に属する部分】

議案第7号 令和5年度鳥取市墓苑事業費特別会計予算

議案第13号 令和5年度鳥取市電気事業費特別会計予算

